

# こころせい

第39号

平成25年 8 月

発行 高知厚生病院  
広 報 委 員 会

## ◆ 高知厚生病院の理念・基本方針 ◆

### 理 念

私たちは、安全かつ質の高い医療を提供し、皆さまに信頼される病院を目指します。

### 基本方針

1. 患者さまとご家族、更に地域の皆さまの幸せのための医療を実践します。
2. 患者さまの権利を尊重し、真摯かつ温かい態度で接し、心と心が通い合う医療を実践します。
3. 自己研鑽に努め、更に発展向上を目指します。
4. 地域の医療機関や施設と連携し、効率的な医療を目指します。
5. 地球環境に留意し、災害への備えを怠りません。

## 過去・現在・未来

(その5)

副院長 山口 龍彦

### □ ホスピススタッフの想い

前回まで、高知厚生病院にホスピス・緩和ケア病棟ができるまでに私が外国で見聞したことなどを書いてきた。それは1992年と1994年に同行させていただいた日野原重明先生のホスピス視察旅行でのことであった。今回は、その時、私が見てきたアメリカやオーストラリア、ニュージーランド、シンガポール等の国々のホスピスで働いていた人たちの「想い」に焦点を当てて書いてみたい。

現地に足を運び、実際に自分の目でホスピスの立地する環境や建物の構造、運営のシステム、中で行なわれていた症状緩和の方法などについて学べたことは、高知厚生病院のホスピス・緩和ケア病棟を設計する上で大変参考になった。また、ホスピスで働いている看護師やスタッフの人たち、ボランティアの人たちがいきいきと輝いて見えたことも印象的だった。

各地のホスピスで出会った患者さんたちは、本当に幸せそうだった。彼らは日本という遠く離れた国からやってきた私たちのグループを笑顔で迎え入れてくれた。当時の日本のがん患者さんの暗くて淋しい顔との違いは衝撃的で、それは「高知にも必ずホスピスを創る」という私の決心の基になった。もう一つ気付かされたことは、その患者さんたちをケアするスタッフも、ホスピスで働いたりボランティアをすることに誇りを持っていて、仕事が楽しそうだったのだ。これも驚きの一つであった。

なぜ、ホスピスにいる人たちは、ケアする方もされる方も「死」を前にしてこのように幸せそうにいられるのだろうか、という疑問が私たちに生まれた。ツアーの参加者同士で行なった話し合いの中で、ある人はこのように言った。

「宗教が日常に自然に存在しているからではないだろうか。」確かに、ホスピスには、いやホスピスに限らず欧米の医療機関には、必ずどの宗教の方にも解放されたチャペルがある。そして、チャプレンという宗教家がいて患者の宗教的ニーズや「スピリチュアルな痛み」に対応してくれるようになっている。

この「スピリチュアルな痛み」というのは、大きな病によって生きる意味を見失い、生きる希望をなく





ハッピーワゴン(色々な飲み物のサービス)とボランティア



ボランティア



メアリーポッターホスピスのチャペル

した状態をいう。また、死を前にして、恐怖感から身動きが取れなくなっている状態もそうである。このような心の深いところの痛みに対して対応してくれる人がいることで、ホスピスという場が単なる生活空間ではなく、聖なる空間のような雰囲気も感じられたのである。

また、別の同行者は、「スタッフが患者や家族と共通の思いをもっていることかもしれない。」と言った。共通の思いとは、「死は終わりではなく、単なる通過点であり、この世の卒業式にしか過ぎない。」と考えていることだという。

日本では、医療の中に宗教はなく、医療者（特に医師）は「死がすべての終わり」と思っている人も多い。死がすべての終わりであれば、死は恐怖の源でしかなく、それについて考えることなどできなくなってしまう。当時の日本の医療機関を支配している「空気」は、「目に見えないものや科学的に証明されないものは信じない」という空気であり、患者や家族が心の底で望んでいるものとは違っていただ。

死は自らの消滅ではなく、体から離れて生きること、あるいは神のもとに行くことかも知れない。神に祝福されるようなよい人生を送ってこられた方であるならば死は恐れるものではなく、喜びである方もいるだろう。卒業式は友人たちとの悲しい別れの場でもあるが、学業を成し遂げたことのお祝いと新しい世界への旅立ちの場でもあるからだ。死は人生の卒業式である。・・・欧米のホスピスの空気はそのような希望に満ちたもので、スタッフと患者と家族の共通の立ち位置であると思われた。

ホスピスを高知に創ろうとすることは、ただ単に快適な生活場所を用意して、痛み止めの技術や薬を取り入れることではないと理解した。体の痛みがなくなれば、患者の額の縦じわを消

すことにはなるのだが、笑顔を生み出すのは幸福感である。身体の痛みを止めた後、心の痛みを取り除いて、幸福感を持っていたらかなければ、ホスピスとは言えないだろう。

最近、宗教リテラシーという言葉が聞かれるようになった。リテラシーとは「読み書き能力」のことで、情報を使いこなす能力のことを「情報リテラシー」といったり、インターネットを上手に使いこなす能力のことを「インターネットリテラシー」とも言うようだ。グローバル化の中でキリスト教、ユダヤ教、イスラム教やヒンズー教など様々な宗教の方々ともお付き合いしなければいけない場面も多くなってくると、基本的な宗教的知識が必要とされるようになってきている。高知にも異国からの人が数多く住む時代になり、生活においても、ビジネスにおいても、宗教が絡む国際紛争を理解し判断する上においても宗教リテラシーが必要とされる時代がやってきた。

日本人の弱点として、その宗教リテラシーが十分でないことがあげられている。特に、大学などで高等教育を受けた人たちの宗教リテラシーの貧弱さが、幸せな時間を作ることを妨げていると思われることが多い。

様々な宗教で共通することは、死は終わりではなく、あの世があること。この世でも、あの世でも幸せになるための方法を教えてくれていることであろうか。

アメリカやオーストラリア、ニュージーランド、シンガポールのホスピスで生き生きとしていたスタッフやボランティアは、患者さんの今を幸せにし、そして来るべき時には幸せなあの世に橋渡しすることを自らの喜びとしている人たちであった。あの頃、私は高知にもそのような素晴らしい働きのできるホスピスを創ることを夢見ていた。当院の6階に礼拝室を造ったのは、そのために必要と考えていたからであり、今もその想いは変わらない。

# 緩和ケアレポート

## 緩和ケアレポート①

4階 緩和ケア病棟 山下 洋子

### 第18回豊かないのち講演会・第12回高知緩和ケア研究発表会

H25年5月19日、第12回高知緩和ケア協会研究発表に参加させて頂きました。

高知県内の緩和ケアに携わる病院の、病棟・外来看護師、地域医療連携室の医療相談員の方々から多くの発表がありました。それぞれ日頃の業務から生じた疑問や、改善すべき点などがテーマとなっており、病院は違っていても、緩和ケアに携わっていく中で同じような問題が生じたり困難にぶつかっていることを知ることができ、今後看護をしていくうえでとても参考になりました。

また、午後の第一部では「ここまできちゅう！高知の緩和ケア2013年度版解説」と題したシンポジウムが開催されました。医師、看護師、薬剤師、ケアマネジャーの方が、患者さんやご家族の方、一般の方から寄せられた質問に対して回答するという形式ですすめられていきました。緩和ケアについてとてもわかりやすく書かれたパンフレットもあり、私たち看護師も改めて勉強することができました。午後からは一般の方の参加も多くあり、高知県内で緩和ケアへの関心が高まっていることを肌で感じることができました。

午後の第二部では淀川キリスト教病院の田村恵子さんの講演「奇跡のホスピス～人生を生き抜く人に寄り添う～」がありました。田村さんが出会った患者さんから頂いた言葉や、思い出をたくさん優しい言葉で語って下さいました。また、参加者一人一人に配布された資料の中には、田村さんからのメッセージがありました。「死は全ての人に必ず訪れる真実です 死について考え向き合うことで いのちの尊さや 生きることの大切さを 感じるようになってくる・・・ 病を生き抜く人の勁さです」講演とこのメッセージを通して、田村さんが患者さんお一人お一人の尊厳を大切に、いかに深い思いを持って接しているかが強く伝わってきました。

## 緩和ケアレポート②

医療ソーシャルワーカー 山下 梓

### ホスピスボランティアさん

高知厚生病院の緩和ケア病棟では、ホスピスボランティアさんが活躍中です。外出時のお手伝い、イベントのお手伝いはもちろんのこと、季節に応じて緩和ケア病棟の壁に飾りつけをして下さったり、昼食のお膳に写真のような季節のカードを添えてくれます。5月には「こいのぼりや～！」と楽しそうなお孫さんの声が聞こえるお部屋もありました。



そして6月にはかわいいアジサイのカード。なんだかこのカードひとつで病棟のスタッフまで癒され、笑顔が増えます。

ホスピス病棟でそんな癒しを与えてくれるボランティアさんに「広報誌に一筆書いてみませんか？」とお誘いしたところ、「ボランティアという立場は決して前に出るものではありません。かげながらお手伝いします」というお言葉でした。行動だけではなく、心からボランティア精神あふれる

あたたかい方々でした。

病棟に入院していると一般社会と少し離れた感覚になります。そこに医師や看護師などの医療者以外の方が入ってくださることにより、病院に身近な社会の風、新しい風を運んでくれます。私はそんなボランティアさんの活躍を知っていたきたく、ここにご報告させていただきました。

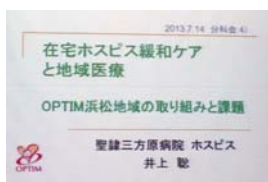




## NPO法人日本ホスピス緩和ケア協会2013年度年次大会に出席して

7月13日（土）・14日（日）に東京で行われた「日本ホスピス緩和ケア協会」主催の2013年度年次大会に出席してきました。この協会は1991年5月に全国のホスピス・緩和ケア病棟が集まり、ホスピス緩和ケアの質の向上及び啓発、普及を目的に「全国ホスピス・緩和ケア病棟連絡協議会」として設立され、2004年7月に「日本ホスピス緩和ケア協会」と改称されたものです。

高知県からは、4施設が参加されており、当院からは5人が参加いたしました。



一日目のテーマは、厚生労働省の推進する在宅医療との連携でした。在宅での緩和ケア・ホスピスカケアを提供するにあたっての試みを実際にモデル地区として4カ所の地域で行い、その結果が報告されていました。その結果、今現在地域にあるリソースを用い、さらにその地域での他職種の教育、顔の見えるネットワークをつくることにより在宅での患者・家族の満足度が高くなるというものでした。

二日目は、午前午後を用いて10の分科会が行われ、緩和ケアを広め、深めていくための医師教育・看護教育・MSW教育支援、リハビリテーション、ケアの質の評価、地域ネットワークやホスピス・緩和ケア推進のための政策提言などの討論が行われました。当院の5名の参加者もそれぞれに参加し、学びを深めてまいりました。

この学びが、がんの闘病で苦しむ患者さんにご家族の役に立つように日々の診療に取り込んでいきたいと考えています。

（文責：小栗啓義）



左からボーリース記念病院細井先生とケアタウン小平クリニック山崎章郎先生。高知から参加のもみのき病院神原先生、森岡SWと記念撮影。



東京駅もリニューアルしてました！

## 3分間スピーチ

### 朝の3分間スピーチより

総務・用度課長 前田 正史



私は、地元で行われている「南国市駅伝大会」に毎年参加しておりますが、今年の大会では、チームの補欠選手での参加になってしまいました。チームでは30代の選手が多くなり平均タイムもさらに速くなってきています。年齢的な事を考えれば来年の2月2日の大会で、何としても、Bチームのレギュラーとして参加すべく練習を続けています。

練習としては、簡単な準備運動をし、愛犬のラブラドル『健太』と約2キロのスロージョギング、そして一度帰って約9キロのジョギングを週に5回しています。去年までは、ジョギングは4キロでしたので、約2倍以上の距離にし、タイム的には45分～60分。これを維持して来年の駅伝大会に臨みたいと思います。走ることは嫌いではありませんので、けがをしないよう、これからも目標にむかって、続けていきたいと思っています。

11月からはいよいよ、駅伝シーズン。県下では11月17日「第64回高知中学駅伝」、12月22日「京都での全国高校駅伝」、年が明けて1月19日広島での「全国都道府県男子駅伝」、1月26日「第62回高知県市町村対抗駅伝大会」などが開催されます。

みなさんも、もし近くで見る機会があれば、選手に声をかけて応援してあげてください。結構うれしいもので、選手自身も“よし頑張るぞ！！”という気になると思います。

### 「職場体験学習の中学生」を受け入れて

看護部長 岩本 泉

高知厚生病院では毎年職場体験学習の中学生を受け入れています。

今年も5月14日（火）と15日（水）の2日間、大津中学校3年生2名に来ていただきました。最初の自己紹介時に、お二人とも「身内に看護師がいて自然に看護師という職業を意識するようになった、実際に職場を体験してより看護の仕事を知りたい、自分も将来看護師になりたい」等と語ってくれました。

現場では、病院で働いている様々な職種のプロとしての意識や役割、また、生きること、死ぬことなどの説明にも熱心に聞き入っていて、とても好感が持てました。また、血圧測定等の体験も興味津々の様子でした。

今年の受け入れでは私自身の気持ちが少し温かくなったことがありました。それは、看護学校時代の同窓生の子供さんが来て下さったことです。同窓生によく似た面ざしに不思議な縁を感じました。

中学生の職場体験学習は、私たち医療従事者も今一度原点を見つめなおし、共に学習する良い機会です。また患者さんやご利用者さんにも新鮮な時間を過ごしていただくことができたようです。

来年も継続していきたいと思います。



### 夏祭り

3階 療養病棟

7月24日（水）に3階療養病棟・通所リハビリ合同レクリエーションが行われました。大正琴の会の皆様による、みかんの花咲く丘・お祭りマンボ・千曲川等の演奏でした。皆さんに馴染み深い曲ばかりでしたので、一緒に歌うことも出来、楽しいひとときとなりました。



大正琴の会の皆様による演奏



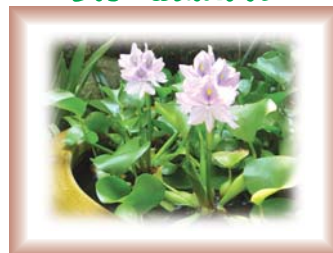
### 「総持寺の 天井絵を 想う日々」

廣喜（102歳）

素敵な一句をご紹介します。

※総持寺は神奈川県横浜市鶴見区の総持寺の事です・・・

### 今月のお気に入り



ホテイアオイ

## リレー・フォー・ライフのお知らせ

2013年10月12日(土)12:00～13日(日)12:00『リレー・フォー・ライフ・ジャパン2013高知』が高知市城西公園で開催されます。

リレーフォーライフ(命のリレー)は、がん患者や家族、その支援者らが公園やグラウンドを24時間交代で歩き、がん征圧を願い絆を深め合う寄付イベントであると同時に、がんで闘う方々の勇気を称え、がんで悩むことのない社会の実現を願うイベントです。

高知厚生病院は今年も多職種でチームを組み、参加する予定です。参加してみたい方は受付にお声をお掛けください。また当日の飛び入り参加もお待ちしておりますので、お気軽に城西公園にお立ち寄りください。軽食コーナーやイベントブースもありますよ。



## 土佐の夢話想のお知らせ

2013年9月15日(日)17:00～16日(月)10:00『土佐の夢話想』がいの町仁淀川河川敷(八天大橋下)で開催されます。

この土佐の夢話想は、高知がん患者支援推進連絡協議会により、がん患者・家族・医療従事者の壁を取り払い同じ思いで、がん撲滅・啓発・旅立たれた方の冥福の思いを込め、灯籠の灯りに思いを馳せ、人それぞれに生きる意味があること、考えることのできる時間を持てる機会に企画されたイベントです。

高知厚生病院は、今年初めて参加する予定です。参加してみたい方は受付にお声をお掛けください。当日は河川敷で開催するため、雨天中止となっております。



## 災害に強い新しい病院へリニューアル(平成26年5月完成予定) 事務部 総務・用度課



平成25年3月末から着工しております一部耐震改築工事も4ヶ月が経過しました。

当院をご利用の皆様には、ご迷惑をお掛け致しておりますが、工事はトラブルもなく順調に進んでおります。7月中には基礎工事が終り、いよいよ建物が立ち上がってきます。

これからも安全には万全を期して進めさせていただきますが、一部騒音や振動など完成まではご迷惑をお掛けする状況が続きます。引き続き、ご理解とご協力の程よろしくお願い致します。



当院は平成15年9月22日より日本医療機能評価機構認定病院となっております。



◆特定非営利法人日本医療機能評価機構より認定研修施設として認定されました



◆厚生労働省より医師の事後臨床研修施設の認定を受けました

### 編集後記

猛暑が続いています。お部屋でじっとしていると、水分を取り忘れてしまいがちです。時間を決めて、水分を取るようにしましょう。